

基本評価シート
様式

青森県 環境エネルギー部 自然保護課

基本評価シート（ニホンジカ）

1. 事業の基本情報

事業名※ ¹	令和7年度青森県指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務		
都道府県名	青森県	担当者部・係名	環境エネルギー部 自然保護課
担当者名		担当者連絡先	017-734-9257
捕獲実施事業者	一般社団法人青森県猟友会 (認定鳥獣捕獲等事業者)	予算額※ ²	11,556,600 円
		予算額の内捕獲に要する経費※ ³	11,556,600 円

※1 交付金を用いて実施した事業名を記入。複数ある場合は、事業件名ごとに記入。

※2 予算額は、交付金の対象となる指定管理鳥獣捕獲等事業の全体予算を記入する。

※3 予算額の内、捕獲に要する経費は、平成28年度から適用される交付金所要額調書様式1-2「2 指定管理鳥獣の捕獲等」の内訳を記入。その他にも、捕獲に要する経費がある場合は、別途加算する。

○令和7年度における捕獲等事業等の取組

〈指定管理鳥獣捕獲等事業の実績〉

事業目標 (目標頭数などの数値目標)	実施結果	
	捕獲頭数	目標達成率
40 頭	13 頭	32.5%

〈生息等の状況及びその他の捕獲実績〉

推定生息頭数	特定計画管理目標	目標生息頭数
—	生息密度の低減	—
狩猟捕獲数	許可捕獲(有害)	許可捕獲(個体数調整)
134 頭	112 頭	—

○これまでの個体群管理の取組（都道府県単独事業）

平成27年度からニホンジカ初動対策事業を実施するとともに、平成29年度に第二種特定鳥獣管理計画（第1次）、令和3年度には第二種特定鳥獣管理計画（第2次）を策定し、科学的かつ計画的な管理に取り組んでいる。

2. 令和7年度指定管理鳥獣捕獲等事業の実施概要

項目	概要
事業背景・目的	本県では、平成29年9月に第二種特定鳥獣管理計画（第1次ニホンジカ）、令和3年度に第二種特定鳥獣管理計画（第2次ニホンジカ）を策定し、ニホンジカに対して科学的かつ計画的な管理を実施していくとしており、県内でもニホンジカの生息密度が高いと考えられる三八・上北地域における生息密度の低減に向け、捕獲等事業による捕獲圧強化を図る。 ※特定計画の中での指定管理鳥獣捕獲等事業の位置付けも記載する。 【選択欄】 ☒ 特定計画の管理目標に不足する捕獲数を高密度地域で上乘せした。 ☐ 分布拡大防止を目的として生息域の外縁で捕獲を実施した。 ☐ 効果的な捕獲手法の開発を行なった。 ※事業実施目的に最も近いものを1つ選択。
人材育成の観点	☒ 人材を育成するための配慮、取組がなされている。
実施期間	令和7年9月3日～令和8年3月19日
実施区域	三八地域及び上北地域 ※実施区域の特徴も記入 ※事業計画の地図がある場合は、図面を添付
関係機関との協力	事業実施場所については市町村と調整済み
事業の捕獲目標	$(32.5\% \text{達成}) = (13 \text{ 実績値}) / (40 \text{ 目標値})$
捕獲手法	【銃猟】 ☐ 誘引狙撃 ☒ 巻き狩り ☒ 忍び猟 ☐ モバイルカリング ☐ 夜間銃猟 ☐ その他（ ） 【わな猟】 ☒ くくりわな ☒ 箱わな ☐ 囲いわな ☐ その他（ ） ※1：各種猟法の定義は〇ページ参照 ※2：複数チェック可
捕獲個体の確認方法	☐ 個体の身体の一部（耳、尾など） ☒ 写真（詳細を記載：スプレーで個体番号を記載） ☐ その他（ ） ※複数チェック可
捕獲個体の処分	捕獲個体の処分について ☐ 全て焼却又は埋設を行っている。 ☒ 一部、食肉等への活用を行っている。 ☐ 一部、放置を認めている。 ※複数チェック可

項目	概要
環境への影響への配慮	わなによる錯誤捕獲について ☒ 錯誤捕獲の情報を収集している。 ☐ 錯誤捕獲の実態は不明である。
	わなによる錯誤捕獲の未然防止について ☒ 錯誤捕獲の防止対策をしている。 （内容：くくりわなの輪の直径 12cm 以内かつワイヤー直径 4 mm 以上、締付け防止金具及びより戻しを設置。クマの活動が低下する 11 月以降に設置。） ☐ 錯誤捕獲の防止対策はしていない。
	鳥類の鉛中毒等について ☒ 鳥類の鉛中毒症例がない。 ☐ 鳥類の鉛中毒症例が確認されている。
	鉛製銃弾について ☐ 全て鉛製銃弾を使用している。 ☒ 一部、非鉛製銃弾を使用している。 ☐ 全て非鉛製銃弾を使用している。
安全管理の体制	鳥獣捕獲等事業の実施に係る安全管理規程に基づき実施
捕獲従事者の体制	【雇用体制】 捕獲従事者数： 150 人 （内訳） 正規雇用者： 人、期間雇用者： 人 日当制：150 人

3. 令和 7 年度指定管理鳥獣捕獲等事業の評価

○指定管理鳥獣捕獲等事業の達成状況の評価について

1. 捕獲に関する評価及び改善点※	
【目標達成】	【評 価】 令和 7 年度事業計画の目標である 40 頭に対して捕獲実績は合計 13 頭であり、前年度から 5 頭の捕獲数増となっている。
	【改善点】 令和 6 年度は、豪雪の影響により、わなが雪に埋まった事例、夜間の気温低下により、くくりわなのワイヤー部分が凍結してわなが作動不能となった事例、誘引餌が風散するといった事例が多発した。そのため、令和 7 年度はより注意を払ってわな管理を行っていたが、令和 6 年度同様、豪雪の影響を受けた形となった。また、目撃情報やモニタリング調査、越冬好適地予測調査結果等から、生息密度が高いと考えられる場所を分析して出猟したことは、捕獲頭数増加の一因と考えられる。
【実施期間】	【評 価】 有害捕獲との調整を図り、本事業については 11 月から翌年 3 月に捕獲を実施した。冬季（積雪期）での実施により、本来であれば足跡等の痕跡からの追跡が容易になることから、実施時期としては妥当だったと考える。
	【改善点】 —

【実施区域】	【評 価】 生息密度が県内で比較的高いと考えられる三八地域に加え、三八地域に隣接する上北地域も実施区域とした。
	【改善点】 —
【捕獲手法】	【評 価】 銃猟（巻狩り・忍び猟）とわな猟（箱わな、くくりわな）による捕獲を行い、13 頭捕獲した。このうち、銃猟による捕獲は 11 頭、くくりわなによる捕獲が 2 頭であった。 捕獲効率は、銃猟で 0.015 頭/人日（R6：0.011 頭/人日）、わな猟で 0.002 頭/基日（R6：0.004 頭/基日）となり、銃猟では微増したものの、わな猟では低下した。
	【改善点】 天候による影響は避けられないものの、今回の経験をもとに、豪雪時でも効果的に捕獲を進められるよう、関係機関等の意見を参考に、適宜連携をして検討を進める。
2. 体制整備に関する評価及び改善点	
【実施体制】	【評 価】 公募によって決定した認定鳥獣捕獲等事業者である一般社団法人青森県猟友会は、地域に精通した捕獲従事者が多く所属しており、事業の実施に適切な体制のもと実施された。
	【改善点】 引き続き、認定鳥獣捕獲等事業者に委託し、事業者には適切な実施体制に努めるよう指導する。
【個体処分】	【評 価】 個体処分については、埋設・焼却の他、一部、食肉（自家消費）として利用した。
	【改善点】 —
【環境配慮】	【評 価】 わな設置期間中は毎日、見回り・点検をしているため、錯誤捕獲の放獣対応などは適切に実施できた。
	【改善点】 —
【安全管理】	【評 価】 安全管理規程を遵守し、事故なく安全に実施された。
	【改善点】 —
3. その他の事項に関する評価及び改善点	
—	
4. 全体評価	
捕獲目標頭数 40 頭に対して捕獲実績が 13 頭（達成率 32.5%）となり、令和 6 年度同様、豪雪による影響等を受けたことで、適切に捕獲圧をかけることができなかった。 天候による影響は避けられないものの、令和 7 年度の三八・上北地域における糞塊密度調査の結果、5.86/km（調査時期：10 月）であり、増加傾向にあることから、今後、生息状況調査結果や更新した越冬好適地予測位置図等を参考に、関係機関とも連携し、より適切な捕獲場所や手法を検討したうえで、捕獲圧を更に強化していく必要がある。	

※「改善点」の欄には、評価結果を次期の指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画にどう反映するか等について記入する。

○第二種特定鳥獣管理計画の目標に対する、本事業の寄与状況について

管理計画では、三八地域の生息密度を平成 28 年度の水準（平均糞塊密度 1.07 糞塊/km）以下に抑えることを目標としており、平均糞塊密度が増加傾向である状況においては、積極的な捕獲が求められる。

事業実施区域は、県内でも平均糞塊密度の高い地域であり、本事業による捕獲圧が生息密度の増加の抑制に一定の寄与があると考えられるが、管理計画の目標を達成するためには、更なる捕獲圧の強化が必要であると考えられ、具体的な生息密度への寄与等については、次年度以降に行うモニタリング調査等を踏まえて評価したい。

4. 必須となる記録項目

（１）データの整備状況

ア）基礎となる記録項目の整備状況

指定管理鳥獣捕獲等事業において整備している情報の項目にチェックをつける。

項目	整備状況	備考
①捕獲数・目撃数・捕獲努力量等の位置情報	☐ 行政区域（都道府県・市町村）ごと ☐ 事業区域ごと ☒ 5 km メッシュ ☐ 1 km メッシュ ☐ 捕獲地点（緯度経度） ☐ 捕獲等に関する位置を記録していない	

項目	整備状況	備考
②捕獲数	☒ 捕獲した個体の総数 ☒ 雌雄の別 ☒ 幼獣・成獣の別 ☒ その他捕獲した個体に関する情報（妊娠の有無、角の形状）	
③目撃数	☒ 作業の従事者が目撃した個体の総数	
④捕獲努力量	☒ 銃猟：のべ作業人日数※ ☒ わな猟：わな稼働日数 （わな稼働日数＝わな基数×稼働日数）	

※延べ作業人日：捕獲作業期間中に捕獲に従事した作業人数の合計。事前調査や下見に費やした作業の人日数は除く。

イ) 捕獲に関する概況地図の作成の可否

項 目	作成できる概況図（地図）※についてチェック			
捕獲位置の地図	☒ 5 k mメッシュ地図	☐ 1 k mメッシュ地図	☐ 地点（緯度経度）地図	☐ 捕獲位置の地図を作成できない
CPUE の地図	☒ 5 k mメッシュ地図	☐ 1 k mメッシュ地図	☐ 地点（緯度経度）地図	☐ CPUE の地図を作成できない
SPUE の地図	☒ 5 k mメッシュ地図	☐ 1 k mメッシュ地図	☐ 地点（緯度経度）地図	☐ SPUE の地図を作成できない
概況図を作成する上での課題				

※概況図は原則として添付する。添付できない場合は「作成できない」をチェックする。

(2) 実施結果（必須となる記録項目）

ア) 捕獲努力量に関する事項

①銃器による捕獲

外業の人日数総数※¹ : 851 人日

事前調査人日数概数※² : 94 人日

出猟（捕獲作業）人日数 : 757 人日

項 目	令和7年 (事業年度の値)	令和6年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（銃猟） のべ人日数	757 人日	626 人日	☒ 増加 ☐ 減少

※1：事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）日数の合計

※2：事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲（箱わな）

外業の人日数総数※¹ : 148 人日

事前調査人日数概数※² : - 人日

出猟（捕獲作業）人日数 : 148 人日

項 目	令和7年 (事業年度の値)	令和6年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	124 基日	248 基日	☒ 増加 ☐ 減少

※1：事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2：事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

②わなによる捕獲（くくりわな）

外業の人日数総数^{※1} : 1,344 人日

事前調査人日数概数^{※2} : - 人日

出猟（捕獲作業）人日数 : 1,144 人日

項 目	令和 7 年 (事業年度の値)	令和 6 年 (前年度の値)	増減の傾向
捕獲努力量（わな猟） わなの稼働総数（わな基×日数）	1,344 基日	226 基日	☒ 増加 ☐ 減少

※1：事前調査人日数概数と出猟（捕獲作業）人日数の合計

※2：事前調査人日数概数は、捕獲作業直前の下見・調査を含まない。

イ）捕獲に関する結果

①銃器による捕獲

項 目	令和 7 年 (事業年度の値)	令和 6 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	13 頭	8 頭	☒ 増加 ☐ 減少
②目撃数	98 頭	71 頭	☒ 増加 ☐ 減少
③雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.46	0.63	☐ 増加 ☒ 減少
④幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.00	0.00	☐ 増加 ☐ 減少

令和 7 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（銃器）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	作業人日数 ^{※1}	CPUE ^{※2}	SPUE ^{※3}
☐ 誘引狙撃	— 頭	— 人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ 巻き狩り	6 頭	640 人日	0.009 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少	0.067 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少
☒ 忍び猟	4 頭	117 人日	0.034 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少	0.145 頭/人日 ☒ 増加 ☐ 減少
☐ モバイルカリング	— 頭	— 人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 夜間銃猟	— 頭	— 人日	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少	頭/人日 ☐ 増加 ☐ 減少
☒ その他 (事前調査)	1 頭	94 人日	0.011 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少	0.000 頭/人日 ☐ 増加 ☒ 減少

※1：作業日数には捕獲を実施していない誘引期間は含まない。

※2：CPUE＝捕獲数／のべ人日数

※3：SPUE＝目撃数／のべ人日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

②わなによる捕獲

項 目	令和 7 年 (事業年度の値)	令和 6 年 (前年度の値)	増減の傾向
①捕獲数	2 頭	1 頭	☒ 増加 ☐ 減少
②雌雄比 (雌捕獲数／全捕獲数)	0.50	0.00	☒ 増加 ☐ 減少
③幼獣・成獣比 (幼獣数／全捕獲数)	0.00	0.00	☐ 増加 ☐ 減少

令和 7 年度指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲手法別（わな）の捕獲実績

捕獲手法	捕獲実績	わな稼働総数※ ¹	CPUE※ ²
☒ くくりわな	2 頭	1,344 基日	0.0015 頭/基日 ☐ 増加 ☒ 減少
☒ 箱わな	0 頭	148 基日	0.000 頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ 囲いわな	—	—	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少
☐ その他 ()	—	—	頭/基日 ☐ 増加 ☐ 減少

※ 1：わな稼働総数には捕獲を実施していない誘因期間は含まない。

※ 2：CPUE＝捕獲数／わな稼働日数

※CPUE、SPUE は前年度の指定管理鳥獣捕獲等事業と比較して、「増加」「減少」をチェックする。

エ) 捕獲個体の適切な処理

処理にかかる人工概数： 不明 人・時間

処理した個体のうち、食肉等への活用した個体の数量概数： — 個体

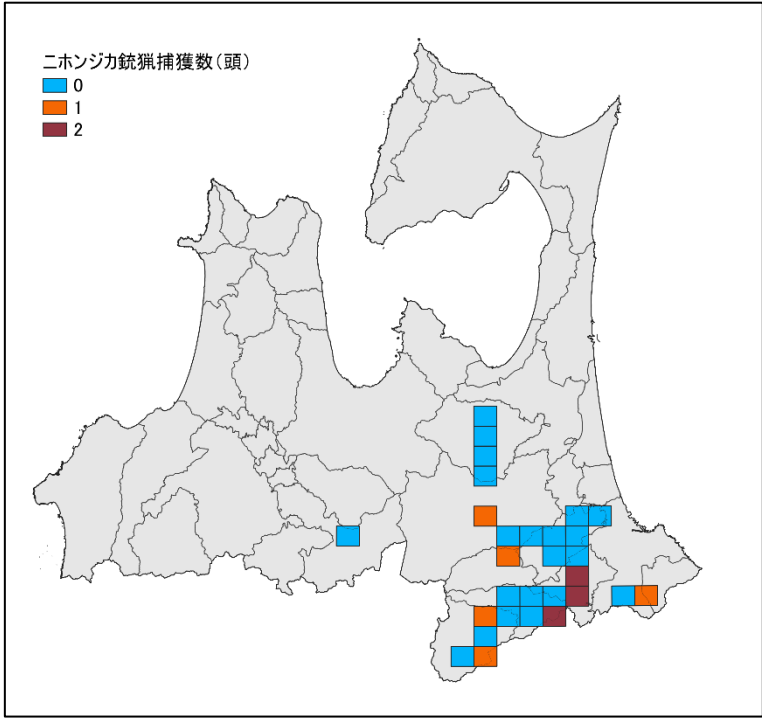
【適正な捕獲が実施されたかを確認する手法】

捕獲結果の報告様式により、処置の概要を確認。

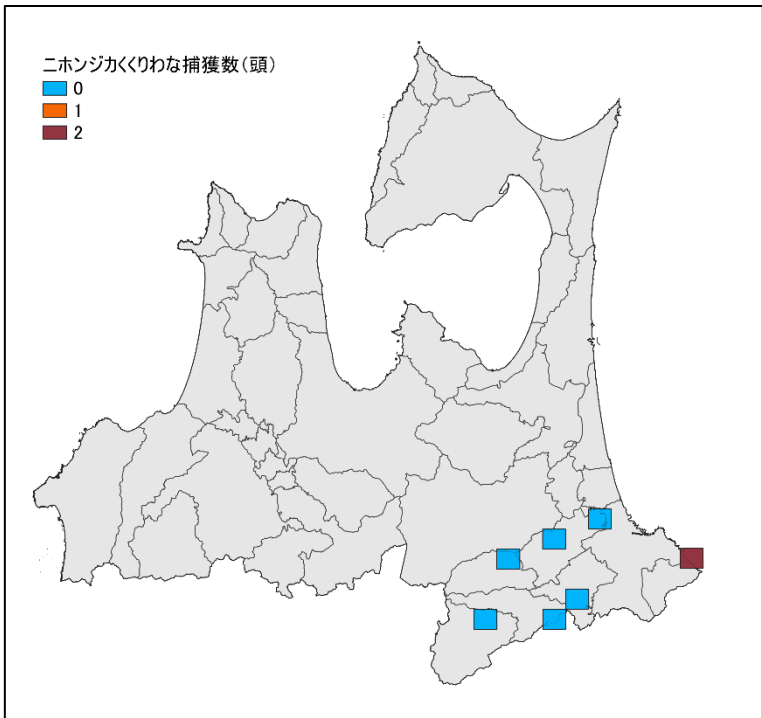
捕獲手法は、地域により様々なものが想定されることから、下記の定義は本評価シートでの暫定的なものです。

誘引狙撃	餌等により、対象種を誘引し、所定の位置から銃器により捕獲等する猟法。
巻き狩り	犬や勢子により追い出した対象種を、所定の位置で待機する射手が銃器で捕獲等する猟法。
忍び猟	単独の射手が徒歩で対象種を追跡して、射撃可能な地点で銃器により捕獲等する猟法。
車両を用いたモバイルカリング	所定の巡回ルートを車両で移動し、射撃可能な位置の対象種を銃器により捕獲等する猟法。
夜間銃猟	法律上必要な手続を全て完了した上で、日出前若しくは日没後において銃器を使用した鳥獣の捕獲等。

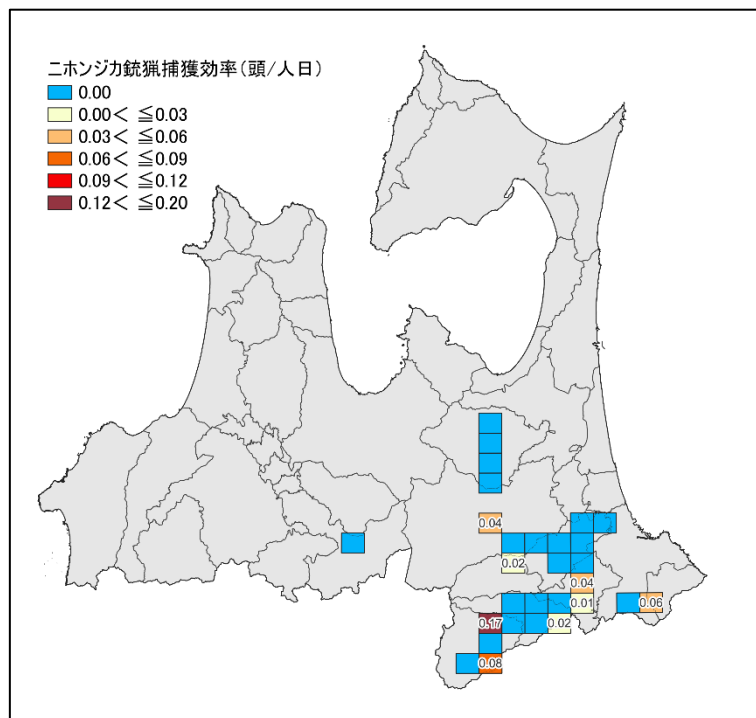
＜令和 7 年度ニホンジカ銃猟捕獲頭数マップ（指定管理）＞



＜令和７年度ニホンジカわな猟捕獲頭数マップ（指定管理）＞

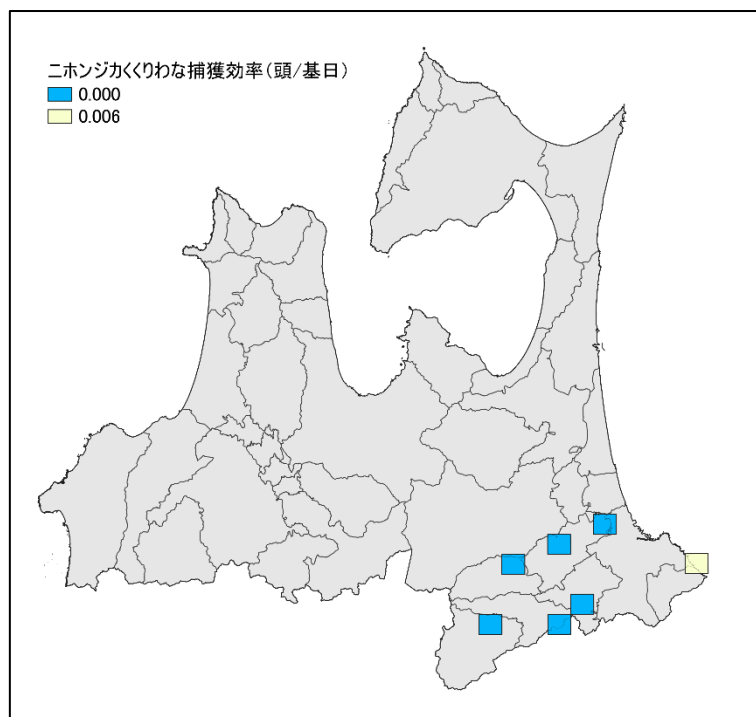


<令和7年度ニホンジカ銃猟 CPUE マップ（指定管理）>



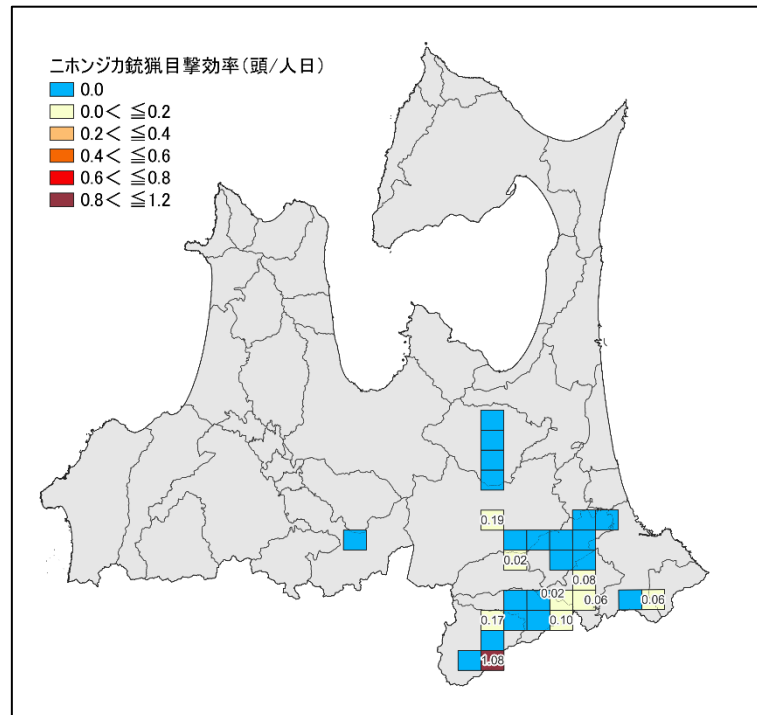
※CPUE：捕獲努力量あたりの捕獲頭数

<令和7年度ニホンジカわな猟 CPUE マップ（指定管理）>



※CPUE：捕獲努力量あたりの捕獲頭数

<令和7年度ニホンジカ SPUE マップ（指定管理）>



※SPUE：捕獲努力量あたりの目撃頭数